

## 第 19 回教育課程企画特別部会について

2016 年 8 月 1 日に中央教育審議会教育課程部会の教育課程企画特別部会が開催された。  
13:00 から 15:00 までスタンダード会議室虎ノ門ヒルズ FRONT 店 2 階会議室にて行われた。

一般傍聴者は 100 名程度であり、冒頭にはテレビカメラ 5 台での撮影が入っていた。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）
- (2) その他

まず、事務局より資料 1「審議のまとめ（素案）のポイント」と資料 3-1「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）（総論部分）」についての説明があった。

学習指導要領全体の方針としては「社会に開かれた教育課程」を目指し、「学びの地図」としての役割を持たせる。「生きる力」の具体化のため、育成すべき資質・能力を三つの柱（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」）に沿って明確化し、「アクティブ・ラーニング」の視点（主体的・対話的で深い学び）から学習過程の改善を目指す。また、総則の構造を抜本的に改善することによって、「カリキュラム・マネジメント」の実施を促進する。

学校段階別の大きな改善点のポイントも示された。

幼児教育では、5 歳時終了時までで育てほしい具体的な 10 の姿を明確にし、小学校と共有することで幼少の接続を行う。

小学校では幼児教育を踏まえた「スタートカリキュラム」等の幼少連携、言語能力育成の充実、特に外国語活動の中学年への引き下げと高学年での教科化、そして、プログラミング教育の導入が大きな変化となる。

中学校では、部活動の位置付けについて重点的に示された。

高等学校では、大幅な科目の見直しが行われ、改定案とその標準単位数が示された。

さらに、インクルーシブ教育システムの構築や、高等学校の通級指導の制度化などの特別支援教育についても記された。

13:45 頃からは審議のまとめ（素案）についての意見交換が行われた。

今回の改訂では、幼児教育から大学までを見通した縦のつながりができたことや、「社会に開かれた教育課程」の意味がはっきりと書かれたことが評価された。

今回まとめられた内容を教育現場はもちろん、家庭や地域、社会へどのように伝えて理解してもらうかが課題であるとの指摘があった。

また、「弱者へのいたわり」が現代社会の課題であるとの指摘もあり、「他者を認め、尊

重する」という視点、多様性についてもっと強調すべきだとの意見があった。

アクティブ・ラーニングについては、きちんと目的と注意点が書かれるようになったと評価の声がある一方で、「深い学び」はやはり難しいので現場が取り組みやすいようなまとめ方をお願いしたいとの要望もあった。

評価については、LDなどの生徒への評価はどうするのかという意見や、きちんと受け渡されて繋がるようポートフォリオ評価や学びの履歴などが見える手立てが必要であるとの意見、根強い点数化による評価観ではなくなることを強調すべきだなど様々な意見が出された。

その他、学校図書館については、調べ学習や言語能力向上に重要な役割を果たすのであるから、しっかり記載してほしいとの要望があった。

次回は8月19日（金）10:00～12:00に開催する予定である。本日の議論を踏まえて審議のまとめとし、一つの区切りをつけることとなる。